

本明川ダム建設事業概要

1. ダムの目的

1) 洪水調節

本明川ダムは、本明川水系河川整備基本方針(H12.12 策定)に基づく洪水調節施設であり、基準地点(裏山)における基本高水のピーク流量(諫早大水害相当)1,070³/sを、本明川ダムにより290³/sの洪水調節を行い、計画高水流量780³/sに軽減し、洪水被害の防止又は軽減を図ります。

2) 流水の正常な機能の維持

渇水時の良好な河川環境の維持と、ダム下流の既得農業用水が安定的に取水できるよう、本明川の流量を確保します。(※公園堰(直下流)で概ね0.25m³/sを確保)

2. ダムの建設予定地



3. ダム等の諸元

■型 式: 台形 CSG[※]ダム

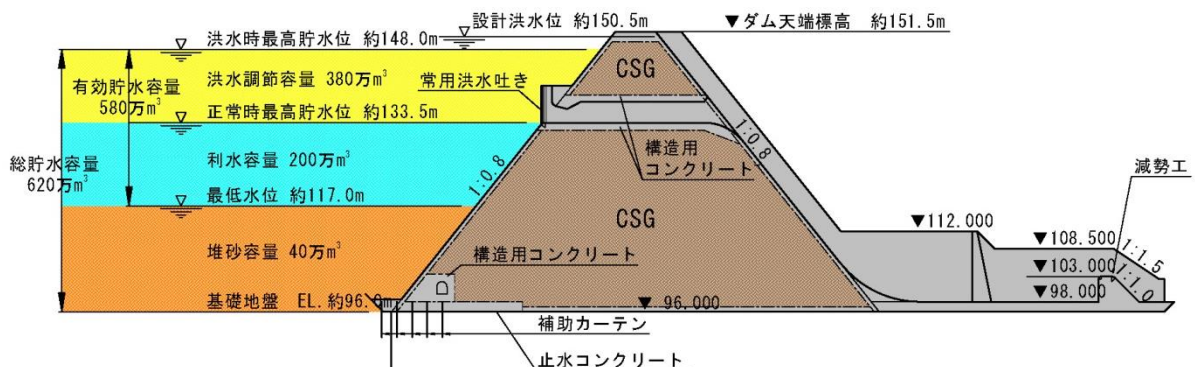
■集水面積: 約 8.9km²

■堤 高: 55.5m(諫早市役所は約 47m)

■総貯水容量: 約 620 万 m³(トランスコスモススタジアム長崎約10杯分)

■堤頂長: 約 340m

※CSG: Cemented Sand and Gravel の略 (セメントで固めた砂礫のこと)



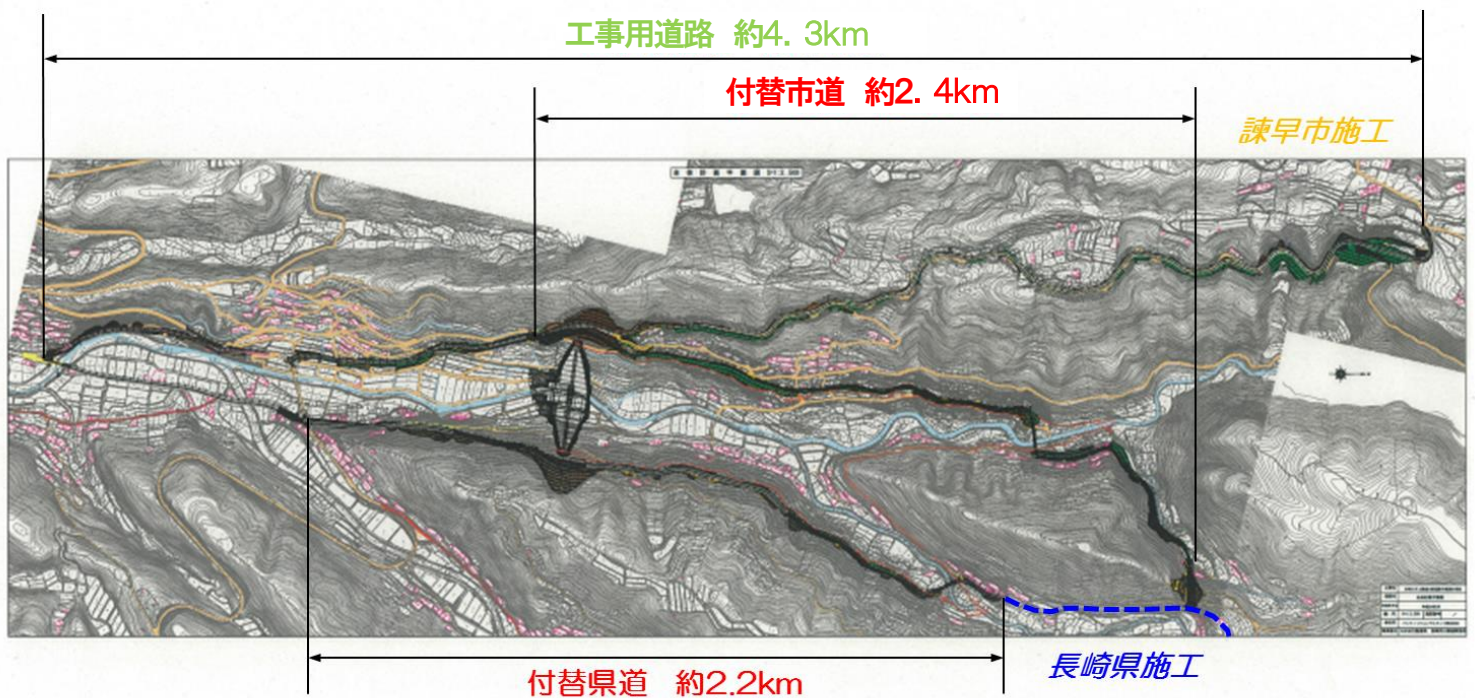
4. ダムの経緯

- 平成 2年 実施計画調査着手
- 平成 6年 建設事業着手
- 平成 12年 「本明川水系河川整備基本方針」策定
- 平成 17年 「本明川水系河川整備計画」策定
- 平成 20年 本明川ダム環境影響評価「方法書」の公告及び縦覧
- 平成 21年 本明川ダム環境影響評価「準備書」の公告及び縦覧
検証の対象とするダム事業に選定
- 平成 25年 検証結果に基づき新規利水を除き事業継続とする国土交通省方針が決定
- 平成 26年 本明川ダム環境影響評価「評価書」の公告及び縦覧
- 平成 28年 本明川水系河川整備計画(変更)の策定(H28.3.29)
- 平成 29年 本明川ダム建設事業に伴う損失補償基準書の調印(H29.2.19)

5. 道路の概要

本明川ダム建設に伴い水没する県道富川溪線、市道大渡野古場線他の付替道路、及び工事のための重機や材料等を搬入運搬するための工事用道路を整備するものです。

整備後は、地域の生活環境の向上や富川溪谷、五百羅漢等へのアクセス向上による観光集客数アップ等が期待されます。



図：付替道路・工事用道路の計画図